

1. 競技規則について

本競技会は、2020 WA Competition & Technical Rules、2021 年度日本陸上競技連盟競技規則、競技会における広告および展示物に関する規程及び本競技会の申し合わせ事項により実施する。

2. 練習について

別紙【練習に関する注意事項】を参照。

3. 参加校受付について

参加校受付は以下の期日、時間、場所で行う。

アスリートビブス、プログラム、ID カードを配布するので、原則として、代表者が一括で受け取ることにする。

期日	受付時間	受付場所
6 月 3 日(木)【大会前日】	14 時 30 分～17 時 00 分	競技場正面玄関前
6 月 4 日(金)～6 日(日)【大会期間中】	開門時刻～閉門時刻	インフォメーション・センター

インフォメーション・センターは、競技場正面玄関前に設置する。開門時刻、閉門時刻については【申し合わせ事項 3】を参照。

4. 各種書類について

大会期間中の各種書類の配付及び提出の窓口については、次のとおりとする。

書 類 名	配付場所	提出先・依頼先
不 出 場 届	インフォメーション・センター及び テクニカルインフォメーション・センター	テクニカルインフォメーション・センター
重 複 出 場 届		
記 録 証 明 書	インフォメーション・センター	インフォメーション・センター
第 4 位から第 8 位までの賞状	インフォメーション・センター	

※テクニカルインフォメーション・センターは招集所に設置する。

5. 招集について

(1) 招集所は、マラソングート付近（ホームストレート側 100m スタート地点付近）に設置する。

なお、棒高跳の招集は競技実施場所（バックストレート側ピット）、ハンマー投の招集は相模原ギオンフィールドで行う。

(2) 種目別、組別の招集開始及び完了時刻は、プログラムの競技日程に記載のとおりとする。

(3) 特別な理由がない限り、招集の際に手指の消毒を行うこと。

(4) 招集の方法は、次のとおりとする。

- ① トラック競技は、招集開始時刻に招集所に集合し、競技者係から当該種目に出場する競技者本人が点呼を受ける。その際、アスリートビブス、商標及びシューズの点検を行い、腰ナンバー標識を受け取る。
- ② フィールド競技は、招集開始時刻に招集所に集合し、競技者係から当該種目に出場する競技者本人が点呼を受ける。その際、アスリートビブス、商標及びシューズの点検を行う。やり投に出場する競技者が旧規格のスパイクで参加したい場合は招集所でその旨を招集所審判長に伝えること。その後、競技役員の指示に従い、競技実施場所へ移動する。
- ③ 競技規則 TR6.3.2 に記載の機器及び通信機能を有する機器を招集所からミックスゾーンまでの競技場内に持ち込むことはできない。違反した場合は助力を受けたものとして警告・失格の対象となる。
- ④ 同時進行種目への出場競技者は、あらかじめ「重複出場届」に必要な事項を記入し、テクニカルインフォメーション・センター（競技者係）に提出する。「重複出場届」は、テクニカルインフォメーション・センター及びインフォメーション・センターにおいて配付する。
- ⑤ 招集完了時刻に遅れた競技者は、その種目を棄権したものとみなす。
- ⑥ 欠場者の人数により、レーンを変更し競技を実施することがある。

6. 不出場(棄権)について

やむを得ず本競技会への出場を辞退する場合は、次の要領で「不出場届」を提出する。

- (1) 6月2日(水)までは、本連合HP (<http://www.iauau.jp/>) に掲載してある「不出場届」に必要事項を記入し、FAX (03-5304-5569) で提出する。
- (2) 6月3日(木)は、競技場エントランス前に用意してある「不出場届」に必要事項を記入し、その場で提出する。やむを得ず、競技場で提出できない場合は、FAX (03-5304-5569) で提出する。
- (3) 6月4日(金)以降は、テクニカルインフォメーション・センター及びインフォメーション・センターに用意してある「不出場届」に必要事項を記入し、テクニカルインフォメーション・センター(競技者係)に提出する。やむを得ず、テクニカルインフォメーション・センター(競技者係)に提出できない場合は、FAX (03-5304-5569) で提出する。

7. アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスは、参加校受付の際に1名につき2枚配付する。
- (2) アスリートビブスは、そのままの大きさと胸と背に確実につける。ただし、跳躍種目に出場する競技者は、胸または背だけでもよい。
- (3) トラック競技に出場する競技者には、腰ナンバー標識(2枚)を招集時に配付する。なお、レース終了後に、5000m及び10000mWで使用するトランスポンダー付きの腰ナンバー標識のみ回収する。
- (4) アスリートビブスの布地及び数字の色は次のとおりとする。
 - ・男子 『黄色地×黒数字』
 - ・女子 『ピンク地×黒数字』
 - ・5000m及び10000mW 『オレンジ地×黒数字』
 - * 5000m及び10000mWで使用する特別アスリートビブスは、招集開始1時間前からテクニカルインフォメーション・センターにて配付する。
 - その際、受付時に配付したアスリートビブスも持参すること。招集は特別アスリートビブスをつけた状態で行う。
 - ・ハンマー投 『白地×黒数字』
 - * ハンマー投に使用する特別アスリートビブスは、競技実施日(4日(金))に相模原ギオンフィールドにて配付する。招集は特別アスリートビブスをつけた状態で行う。

8. 用具について

- (1) 棒高跳用のポールは、各自が持参したものを使用する。
- (2) その他の競技に使用する用具は競技場備え付けのものを使用する。ただし、投てき競技で、個人所有の投てき物の使用を希望する場合には
 - (3)に従い検査を受け使用許可を受けることで個人所有の投てき物の使用を認める。新型コロナウイルス感染症対策の観点から、投てき競技については、可能な限り個人所有の投てき物を持参すること。
- (3) 個人所有の投てき物を使用する場合、競技開始時刻の2時間前から1時間前までに検査を受ける。検査を経て合格した投てき物に、主催者の用意するシールを貼るので、競技終了まではがしてはならない。この場合、個人所有の投てき物については一時的に競技場備品としての扱いとなるので、他の競技者との共用になる。また、返却は当該種目の競技終了後に返却場所にて行う。検査場所及び返却場所については次のとおりとする。一人2個まで持ち込むことができる。

用具	検査場所及び返却場所
砲丸、円盤及びやり	レモンガススタジアム平塚 用器具庫
ハンマー	相模原ギオンフィールド 用器具庫

- (4) 個人所有の用具の破損に関して、主催者側は一切の責任を負わない。
- (5) フィールド競技で使用するすべり止め(炭マグ)は、各競技者が個人で準備する。

9. 競技について

- (1) トラック競技について
 - ① トラック競技における招集完了後の練習は、すべて競技役員の指示に従う。
 - ② 参加人数により、予選・準決勝・B決勝を行わない場合がある。

- ③ 5000m 及び 3000mSC の決勝は、参加人数によってタイムレース決勝とする。
- ④ 100m、200m、100mH 及び 110mH は、気象状況によりバックストレートで実施する。
- ⑤ 短距離種目では、衝突事故を防止するため、フィニッシュライン通過後も自分の割り当てられたレーンを走る。
- ⑥ 新型コロナウイルス感染症対策の観点から、フィニッシュ後の倒れこみは極力避けること。
- ⑦ 5000m 及び 10000mW は、気象状況により給水を行う。新型コロナウイルス感染症対策の観点から、給水所にスポンジは設置せず、すべてペットボトルで行う。
- ⑧ 5000m 及び 10000mW においては、周回の確認のため、トランスポンダー付きの腰ナンバー標識を左側に着用する。
- ⑨ 10000mW においては、競歩審判員主任による単独失格権限ルール（TR54. 4. 1）を適用する。
- ⑩ 400m 以下の種目及び障害種目は、レース直前の練習前及び練習後、フィニッシュ後に必ず手指の消毒を行うこと。
- ⑪ ⑩以外の種目は、フィニッシュ後に必ず手指の消毒を行うこと。

(2) フィールド競技について

- ① フィールド競技における招集完了後の競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従う。
- ② 新型コロナウイルス感染症対策の観点から、試技の待ち時間はマスクを着用すること。
- ③ 棒高跳の競技場所での練習は、ゴム製バーを用いて行う。走高跳の競技場所での練習は、通常のバーを用いて行う。
- ④ 走高跳及び棒高跳のバーの上げ方は原則として次のとおりとする。

種目・種別		練習	1	2	3	4	5	以 降
走高跳	男子	2 m 0 0 2 m 1 0	2 m 0 5	2 m 1 0	2 m 1 3	2 m 1 6	2 m 1 9	+ 3 c m
	女子	1 m 6 0 1 m 7 0	1 m 6 5	1 m 7 0	1 m 7 5	1 m 7 8	1 m 8 1	
棒高跳	男子	4 m 7 0 5 m 0 0 5 m 2 0	4 m 8 0	5 m 0 0	5 m 1 0	5 m 2 0	5 m 3 0	+ 5 c m
	女子	3 m 4 0 3 m 7 0	3 m 4 0	3 m 5 0	3 m 6 0	3 m 7 0	3 m 8 0	

- ⑤ 三段跳の踏切板の位置は、男子 13m、女子は 11m とする。
- ⑥ 投てき競技の競技場内での練習は、1 回につき 60 秒以内とする。
- ⑦ 投てき競技の計測は、光波距離測定装置を使用する。ただし、砲丸投の計測は鋼鉄製の巻尺を使用する。
- ⑧ ハンマー投は、相模原ギオンフィールドで行う。
- ⑨ 試技前に必ず手指の消毒を行うこと。

(3) 競技結果と番組編成について

- ① 各種目の結果の正式発表は大型スクリーンにて行う。
- ② タイムにより次のラウンドに進む競技者の決定について、同記録の競技者がいる場合は、写真判定員主任が 0.001 秒単位の時間を判定して決定する。それでも決まらない場合は、当該の競技者または代理人による抽選とする。
- ③ 競技結果等は記録処理終了後、随時、本連合 HP にて発表する。競技結果及び準決勝以降の番組編成リスト等は各自で確認すること。

PC 用サイト <https://www.iuau.jp/>

スマートフォン用サイト <https://www.iuau.jp/sp1/index.html>

(4) その他

競技規則を厳格適用し、CR18.5 及び TR7.2 の適用により警告を 2 回受けた競技者は失格となり除外処分対象となるので、この競技会における以後のすべての種目に出場できなくなる。

10. 抗議と上訴について

競技結果の正式発表時間は大型スクリーンに発表された時間を基準とする。競技の結果または競技進行中に起きた競技者の行為に関する抗議は、競技結果が大型スクリーンに発表されてから、競技規則に定められた時間内に、その競技者または代理人がテクニカルインフォメーション

ン・センターに申し出る。その後、担当総務員を通して審判長に対して口頭で抗議を行う。さらに、この裁定に不服の場合は預託金(1万円)を添え、競技規則に定められた時間内に、その競技者または代理人が担当総務員を通して Jury に文書で申し出る。

なお、抗議については、TR8.4〔国際〕及び TR8.5〔国際〕を適用し、競技エリアで競技者本人から当該、審判長が抗議を受け付け、裁定する場合がある。不正スタート及びフィールド競技の判定に対して競技者自身が異議のある場合には、直ちに該当審判長に申し出ることができる。

11. ドーピング・コントロール・テストの実施について

- (1) ドーピング・コントロール・テストは、日本アンチ・ドーピング機構及び日本陸上競技連盟の規則に従い実施する。ドーピング・コントロール・テストを指示された競技者は、競技役員の指示に従ってテストを受ける。その際、顔写真付きの本人確認書類が必要となるので、顔写真のついた学生証、運転免許証、写真が鮮明なパスポートコピー等を携行すること。
- (2) 禁止表国際基準で定められる禁止物質・禁止方法を病気の治療目的で使わざるを得ない競技者は“治療使用特例(TUE)”の申請を行わなければならない。詳細については、日本陸上競技連盟医事委員会のホームページ(<http://www.jaaf.or.jp/about/resist/medical/>)、日本アンチ・ドーピング機構ホームページ(<http://www.playtruejapan.org/>)及び日本学生陸上競技連合 HP (<https://www.iuau.jp/>)内の「知っておきたいアンチ・ドーピングの知識 2021 年版」を確認すること。

12. 表彰について

- (1) 各種目の第1位から第3位までに入賞した競技者には、メダルと賞状を表彰式にて授与する。競技終了後、速やかにエントランスホール内の表彰対象者待機場所まで集合すること。
- (2) 表彰式の際の服装は、待機場所で配布するプレゼンテーションビブスをつけて、公式 T シャツあるいはジャージを着用し、下は公式ジャージを着用すること。
- (3) 第4位から第8位までに入賞した競技者には賞状を授与するので、インフォメーション・センターにて受け取ること。
- (4) 表彰を受ける競技者に対する記念撮影及び声掛け等は、新型コロナウイルス感染症対策の観点から行わないこと。
- (5) 表彰対象者は、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、原則としてマスク等を着用して表彰式で表彰を受けること。
- (6) ハンマー投の表彰は、競技終了後現地で別の形式で実施する。現地の表彰担当者に従うこと。

13. その他

- (1) ID コントロールを実施するので、配付した ID カードには大学名および氏名を必ず記載し、常に携帯すること。
- (2) 本大会は新型コロナウイルス感染症対策の観点から、トレーナー活動場所は設定しない。
- (3) スタートとフィニッシュの場所が異なるトラック競技では、招集所で配付された袋に入れられた衣類等をフィニッシュ地点付近まで運搬する。
- (4) 競技終了後、各種目の1位から3位の選手及び主催者が許可した報道関係者から取材の希望があった選手は、必ずミックスゾーンを通過し、主催者が許可した報道関係者の取材を受けること。また、表彰式終了後もインタビューを受けることがあるので協力すること。
- (5) 大会期間中の貴重品の管理は各自で行うこと。盗難及び紛失に関しては、一切の責任を負わない。なお、大会期間中に主催者に届けられた物品等については、一時的にインフォメーション・センターにて保管する。大会終了後は主催者で一時的に保管し、その後処分する。
- (6) 競技中に発生した傷害及び疾病等についての応急処置は主催者において行うが、それ以後の責任は一切負わない。ただし、2021 年度公益社団法人日本学生陸上競技連合普通会員は、原則としてスポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。必要な競技者はインフォメーション・センターにおいて、スポーツ安全保険の事故報告書を受け取ること。
- (7) 救急車などの緊急車両を手配する事態が起こった場合、一刻を争う事態でない限り大会本部および競技場側の許可なく手配しない。手配する場合は大会本部より車両の手配を行うので、その際は、詳細を含めインフォメーション・センターに連絡すること。
- (8) 主催者が許可した場合を除き芝生への立ち入りは一切禁止する。
- (9) その他、不明な点は、インフォメーション・センターに問い合わせること。